

山下先生へ



ご紹介いたします
循環器科の新メンバー
福田浩平 医師



「診療の引き出しをもっと増やしていきたい」。 こつこつと経験を積む福田医師の活躍にご期待ください。

01 急性期から慢性期まで対応できる 循環器の専門医へ。

最初に、先生のプロフィールを教えてください。

福田 2016年に兵庫医科大学を卒業しました。卒業後、大阪市内の急性期病院、大阪市立大学医学部附属病院で研修を受け、そのまま同院の循環器科に入職。今年4月から当院に赴任してきました。現在、27歳です。

医師になろうと思ったきっかけは？

福田 もともと父が歯科医をしていて、幼い頃から医療は身近にありました。進路を決める際もごく自然に、医師の道へ進むことになりましたね。そのなかで循環器科を選んだのは、研修での経験が大きかったです。学生の頃は漠然と、手術で完治をめざす外科に憧れていたのですが、実際に循環器科で学んでみると、目の前の命を救う急性期の疾患から、全身を管理する慢性期の疾患、さらに病気にならない予防医療まで幅広く関わることができます。その魅力に惹かれ、循環器科へ進むことを決意しました。



循環器科 医師 福田 浩平

02 患者さまの話を しっかり聞いて診察に活かす。

入職からまだ1カ月余りですが、日々の仕事についてお聞かせください。

福田 主治医として入院患者さまを担当しているほか、狭心症や心筋梗塞などのカテーテル治療、心房細動などの不整脈治療、ペースメーカー留置などの手技に積極的に参加しています。また、毎週木曜日は外来を担当。循環器疾患に不安のある患者さまを診察し、適切な検査を行い、正確な診断に繋がっています。

仕事で心がけているのはどんなことですか。

福田 患者さまの話をよく聞くことです。外来では、最後に必ず「何か言い忘れたことはないですか」とお聞きします。すると、「そう言えば…」と診断に繋がる重要な情報を聞き出せることもあります。

病棟では、一日2回以上、朝と夕方に担当している患者さまのベッドサイドに出向き、お話を聞くようにしています。「体調はどうか？」とお声をかけ、何か困りごとはないかお聞きします。さらに時間があるときは、世間話をすることも…。実は、僕の名前が演歌歌手（福田こうへい）の方と同じことから、演歌好きの患者さまやご家族と話が盛り上がることもあります。

日々の勉強は、どのようにしていますか。

福田 病棟の仕事が毎日、大体18時～19時くらいに終わります。そこからの時間を自己研鑽にあてています。その日の診療で何か気になることがあれば、文献を調べたり、先輩に聞いたりして、解決します。一日の疑問を次の日に持ち越さないことがモットーですね。そのほか、翌日、カテーテルを用いた治療の予定が入っているときは、カルテに目を通して予習しておきます。一つひとつ、やるべきことをコツコツとこなすよう心がけています。

03 全員診療の循環器科チームで スキルを磨く。

循環器科はどんな雰囲気ですか。

福田 とても風通しがいいですね。山下部長をはじめ、皆さん、とても話やすく、どんなことでも相談できます。また、どの先生も患者さまを本当に大事にしており、大変、勉強になります。たとえば、退院支援の関わり方もその一つです。当院は急性期病院なので、治療が終われば、速やかに次のステージに移っていただかなくてはなりません。そういうときも、先輩方は「決して看護師や医療ソーシャルワーカー任せにするのではなく、患者さまの生活復帰を見据え、医師としてできることを探して力を尽くしなさい」と教えてくださいます。

循環器科のチームの特色を一言で表すと…？

福田 「全員診療」です。それぞれに担当する患者さまは

いますが、電子カルテの情報を全員で共有。個々の患者さまの診療について、ざっくばらんに意見を出し合っています。その意見交換を通じ、いろいろな治療のアイデアを学ぶことができますね。正しい選択をするには、治療法のアイデアをたくさん蓄積しなくてはなりません。先輩方に学び、診療の引き出しを着実に増やしていこうと考えています。

これから特に力を入れたい分野はありますか。

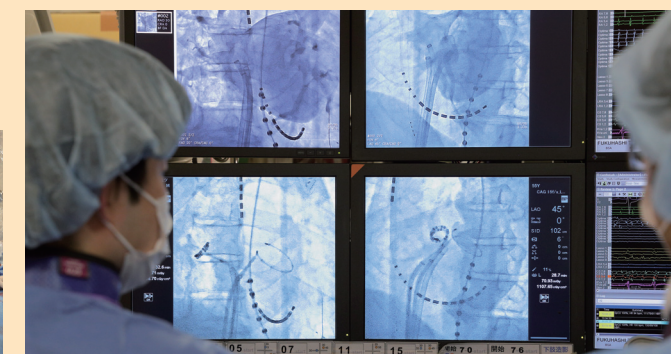
福田 まだ若手なので、何でもやります。救命救急が必要な心筋梗塞については、適切な初期対応はもちろん、カテーテル治療も着実に行っていきます。また、当科では不整脈に対するアブレーション治療に力を入れているので、その分野のスキルを磨いていきたいです。たくさんの症例を経験して、学会発表にも積極的に挑戦していくつもりです。

頻脈性不整脈に対する アブレーション治療。

福田医師が関わっている手技の一つに、不整脈に対するアブレーション治療があります。不整脈は心臓の拍動リズムが乱れ、脈が不規則になる病気で、脈拍数が多くなる「頻脈性不整脈」と、脈拍数が少なくなる「徐脈性不整脈」があります。このうち、頻脈性



不整脈に対しては、カテーテルを用いたアブレーション治療が有効です。アブレーション治療は、静脈からカテーテルを挿入して心臓まで到達させ、電流により組織細胞を壊死させるもの。当科では、高解像度の3次元マッピングシステム<リズミア>を導入。カテーテルの位置や心臓の電気の流れを画面で確認しながら、安全正確な治療を行っています。「疾患、症例に応じて、<リズミア>を積極的に活用しています。何よりも治療時間の短縮化を図ることができ、患者さまへの負担軽減に繋がっています」と福田医師は話しています。



3次元マッピングシステム
<リズミア>の画像例▶

